

資料1 本年度(令和5年度)の学校評価

<p>本年度 重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の安全・安心な学校生活を支えるために、環境整備と実践的教育を充実する。 2 児童生徒の学習に向かう意欲を育てるとともに、ICT環境を積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。 3 個に応じた自立活動の充実を図るとともに、発達段階に応じたキャリア教育を推進する。 4 きまりやルールを守り生活に生かす力を育むとともに、多様な背景をもつ児童生徒に寄り添った指導・支援を行う。 5 地域における体験的な学習を増やして社会性を高める。 6 保護者や関係機関とのつながりを強化し、教育的支援力の向上を図る。 7 基本的な感染症防止対策を徹底する。 8 教職員が健康的に教育活動及び業務に従事できる環境を整えていく。 			
担当	重点目標 (関連項目番号)	具体的方策	評価	評価結果と課題
<p>小学部</p>	<p>自立活動の指導について互いの実践や教材を共有し、自身の指導に生かす。(3)</p>	<p>部会や主任者会を通して、各学年の実践や教材を報告し合う。</p>	<p>B</p>	<p>教務の授業参観週間に合わせ、その前に各学年から自立活動の授業のグループや指導内容等について部会で報告した。報告を踏まえ、実際に授業を参観することで、実践について具体的に知り、共有できた。「活動内容が参考になり、取り入れたいと思った。」「すぐに用意できそうな教材を見つけられた。」などの感想が挙げられた。一方で、ワークシステム等について確認する場があるとよい、共用できる教材が欲しいなど建設的な課題も出てきているため、部として検討していきたい。</p>
<p>中学部</p>	<p>個に応じた清掃指導の充実を図る。(1、3)</p>	<p>清掃場所、清掃方法や指導内容を整理して職員間で理解を図り、生徒個々の目標に応じて清掃指導をする。</p>	<p>B</p>	<p>校内研究のICT活用の一グループが清掃方法の模範動画及び清掃方法のチェック表を作成し、教員間で共有した。チェック表の清掃方法を基本として生徒の実態に応じて目標を立てて指導し、6割程の職員が雑巾絞り、机拭き、掃き掃除の仕方を意識して生徒の指導に当たった。チェック表の一日のなかで清掃活動の時間を設定した学級が9学級あり、多くの学級が登校後や給食後に毎日清掃活動を行えた。次年度の始めに中学部全体で清掃の仕方を研修として共有してより意識を高め、生徒へ清掃指導が行えるよう努めたい。</p>
<p>高等部</p>	<p>ICTを積極的に活用した授業改善をする。(2)</p>	<p>ICTを効果的に活用し、分かりやすく深まりのある授業を行う。</p>	<p>A</p>	<p>高等部の校内研究では、各学年でICTを活用した教材制作について話し合いを行った。各学年で、授業場面(各教科、生単、進路)を決め、プレゼンテーションを作成した。また、生徒の実態に応じて、類型ごとにアレンジして授業で活用できた。今後は、授業の活用状況や生徒にとって効果的であったのかを振り返るとともに、データを蓄積して次年度以降にもつなげていきたい。</p>
<p>総務部</p>	<p>学校要覧の様式を見直し、より本校の教育活動を分かりやすく示す。(6)</p>	<p>現在の様式や項目を見直し、校務部会等で検討する。</p>	<p>A</p>	<p>総務部会でグループごとに作成した要覧を発表しあい、各々の良いところを併せて新たな学校要覧に仕上げる準備が整った。今後、総務部以外の職員にも見てもらい、より良い要覧にしていきたい。作って終わりではなく、来年度使用してみたいの感想や意見を聞き取り、次年度へと活かすことを忘れず行っていく。</p>
<p>教務部</p>	<p>児童生徒の学習に向かう意欲を育てるための授業改善を進める。(2)</p>	<p>職員一人一人の指導力を高めることを目指し、教職員同士授業参観を行う。</p>	<p>A</p>	<p>6月、10月の参観週間中、8割を超える職員が授業参観を行った。また、今回の参観週間を有効に使い、複数回参観した方も多数いた。参観後のアンケート調査では、教材・教具、環境設定、児童生徒への支援の仕方、授業の展開の仕方等に関して、「参考になった」「自身の授業の改善につながった」という意見を多くいただいた。いつでも気軽に参観し合える雰囲気をつくることも課題であると考え、土台づくりを目指して、今後も他学部を含めた職員の授業参観の機会を設定したい。</p>
<p>保健 体育部</p>	<p>安全点検を通して、校内不良個所の早期発見と注意喚起を促すとともに、修理修繕等を要望、実施し、事故の未然防止に務める。(1)</p>	<p>報告のあった危険箇所や修理修繕等の必要箇所は、毎月校内グループウェアにアップし、職員へ報告するとともに、データに残しておく。</p>	<p>A</p>	<p>毎月の安全点検の結果をグループウェアにアップし、修理修繕の必要がある場所は、速やかに「修繕、購入伺い」を提出してもらい、未然に事故を防ぐ対応をすることができた。今後の課題は、改修工事が行われている最中は、修理修繕の必要な場所の使用者と点検者が違うケースも生じるため、連携をとってもらい、報告された場合は、事務と相談しながら計画的に対処をする。</p>

自立活動部	自立活動の時間における指導の中で、実際に活用している教材・教具の情報を収集、発信することで、指導の充実を図る。(2、3)	自立活動部の職員が、授業担当者から実際に教材・教具を見せてもらい、ねらいや使い方など聞き取りをして、自立活動だよりで紹介する。	A	時間における指導で活用している教材・教具について、2回聞き取りをした。1回目は、主に机上での自立課題、個別課題をたよりで紹介し、校内研修でも一部展示することで、多くの先生方に見てもらえることができた。2回目は主に身体の動きに関する実践について情報を集め、ICTを活用した事例を多く紹介することができた。アンケートを実施したところ、「教材・教具の紹介がとても参考になった」という意見が複数あった一方、中心的課題の整理や目標設定に難しさを感じている先生方が多くいることが分かった。今後は、児童生徒の行動の捉え方や目標設定の仕方についても理解を深めていく必要があると感じた。
指導部	教職員が児童生徒の心の健康について関心をもち、必要な手立てについて共通理解を図り、指導することができる。(1)	「こころとからだの健康アンケート」の結果に基づいて「虹のつばさ」の内容を精選し、教育活動に生かす。また、どの授業で活用したかアンケートを実施する。	B	「こころとからだの健康アンケート」について職員にアンケートを実施した。「保護者の困りごとや不安感を把握することができた」「関わり方に配慮」したなどの意見があった。また、情報共有としての意見として「学年間で対応を確認した」「詳しい様子を知るために家庭連絡をした」などがあった。職員アンケート結果から各部としての指導に生かしたという意見がなかったため方法を含めて検討したい。
	教職員、保護者へ南海トラフ臨時情報を想定した一斉下校訓練等の方法を周知し、防災教育の推進を図る。(1)	・災害時に必要な行動について情報にし、研修等を通じて浸透を図る。 ・激甚災害時マニュアルや避難経路図を活用し、非常時に備える。 ・南海トラフ臨時情報に特化した訓練を実施する。	B	一斉下校訓練では、駐車場の誘導を積極的に担当してもらい、多くの先生方に経験してもらえることができた。保護者の方も決められた時間に迎えに来ることができた。メール配信訓練を3回行い、返信率は平均76%だったため、保護者への周知が課題である。また、「南海トラフ臨時情報」発表時の対応について防災担当を中心に指導部で検討、変更したので、職員、保護者への周知も課題である。
進路指導部	「キャリア教育ノート」の内容を見直し、実践例をまとめ、示す。(3、4)	キャリア教育ノートを日頃の教育活動で活用できるようにし、成果をまとめる。	A	各学期ごとに活用状況を確認した。授業での利用についてもシートの紹介をし、積極的に進めることができた。各部での実践例をデータに保存し、ファイルにまとめることで情報の共有をすることができた。今後も継続して取り組んでいきたいと思うが各部の教務部と連携をして進めていきたい。
研修部	初任者研修に関する資料を閲覧できるように整理し、教員資質の向上を図る。(2)	初任者研修の講義等の資料データを整理したり、紙ファイルとPDFにして保管したりすることで、教員が閲覧しやすいようにする。	A	研修部職員で分担し、資料データを研修領域ごとに分け、整理精選する作業を行った。並行して、印刷した資料をファイルに整理して保管するようにした。グループウェアで校内の先生方に閲覧してもらえるように案内した。東三河初任者研修などの研修会で資料を展示し、研修者に参考にしてもらえらるようになった。資料を増やしたり、リニューアルしたりすることができればと考えている。
情報図書部	児童生徒用iPadでの教材作成方法を分かりやすく知らせる。(2)	現職研修で作成方法を知らせる。教材作成マニュアルを作る。	A	教材作成のマニュアルをサーバ上で共有し、ICT支援員による教材作成方法の研修も行ったところ、73%の教員が児童生徒iPad用の教材を既に作成または現在作成途中という結果となった。今後の課題としては、児童生徒iPadの容量が不足してきており、不具合を生じている事象があるため、アプリの精選を考えていきたい。
支援部	支援部内の教育的支援力の向上を図る。(6)	研修を通して、地域支援やたんぼ相談に必要な知識を高める。	A	地域支援やたんぼ相談の課題や解決策を随時話し合うことができた。その内容を踏まえてQ&A集を作成した。また、SST（ソーシャルスキルトレーニング）の実践研修を行った。検討会の経験や部内研修を重ねることで多くの知識を身につけ、話し合いの場では的確な意見が出るようになり、気付きが増えた。実際に検討会では、事前準備や持参資料を生かしてアドバイスをして来ることができた。今後は、校外だけではなくよりよい校内支援の仕方を考えていく必要性を感じている。
教頭	教員それぞれが頑張ろうと思える働きがいがあり、働きやすい職場環境をつくる。(8)	安全衛生委員会等を活用して、互いに関心をもち信頼関係が深まるような活動を設定する。アンケートや各部・校務分掌であがった意見を基に効率を考えた働き方を提案し実行する。	B	安全衛生委員会主催のリフレッシュ活動を年間で計5講座を実施した。調理員や非常勤職員主催の講座を設けたり、教職員から積極的に講師の申し出があったりしたことから、リフレッシュ活動の定着を感じたとともに、教職員のつながりを広めることにつながった。働きやすさについては、アンケートや安全衛生委員会での発言から、施設を児童生徒の係活動とすることや、会議の終了時間を厳守するなどの意見が挙げられた。会議時間は、会議を主催する職員に周知したことで時刻の意識が高まった。